

力ネミ油症

孫にもダイオキシン

大学教授ら
学会発表へ
へその緒に高濃度

最大の食品公害とされる「力ネミ油症事件」に端を発し、女性被害者の孫の「へその緒」に、被害の原因となったダイオキシン類が通常より高濃度で含まれていることが、宮田秀明・摂南大学教授(環境科学)らの研究で確認された。力ネミ油症を巡っては、胎内で影響を受けたとみられる3人が既に被害者認定を受けているが、今回の研究は、被害者の子供にとりまらず、孫の世代にまで影響が及んでいることをうかがわせる結果となった。12日に東京横浜で開かれる環境ホルモンの学会で発表される。

研究は、母親の胎盤を通じて胎児がダイオキシン類にさらされる被害の世代間連鎖を裏付けるため、宮田教授と力ネミ油症被害者支援センターによって行われ、

認定被害者1人の子供92000年生まれの各1つの平均とされる85μgと比べて高濃度だった。家族に比べて、2人とも病弱という子供9人については、350μgから1万1000μgと、同年代の人

り引き継がれた。黒いニギビや全身の倦怠感など症状は様々で、これまでに892人が被害者として都道府県に認定され、力ネミ倉庫から医療費の自己負担分が支給されている。被害者の孫が認定されたケースはない。

理もれた被害
救済検討を
解説
力ネミ油症事件が発覚してから38年が経過しても、子供、その母体教職41名、

生徒3人
埼玉の中心
41歳男性教

の後も同区警署や六本松などでも目撃情報が続いており、捜索が続いている。同署によると、狼は体長40〜50cm、野生のニホンザルとみられる。同市博多区でも9日朝から10日朝にかけて狼が4回目撃されており、同じ狼らしい。

発見現場の間交番は市中心部。通勤、通学時間帯となり、人だかりがでるなど一時騒然となった。中央区六本松3にある「金網や塀の壊れて食べていた。こんな市に」と驚いていた。



斜面を猛スピードで駆け上がるイノシシ

来年の干支 猛進

※ 北九州の住宅地

北九州市八幡西区の住宅街に10月以降、体長約60cmの雄イノシシが出没、生ゴミをあさったり、はいかいていくという。6日午後10時30分、同区には公園そばの雑木林に現れ、尿の跡は3箇所、危険を感じた住民は、緊急時救助隊を呼び、斜面を猛スピードで駆け上がるイノシシを、東下り、西下り、

天神に野生?サル

の後も同区警署や六本松などでも目撃情報が続いており、捜索が続いている。同署によると、狼は体長40〜50cm、野生のニホンザルとみられる。同市博多区でも9日朝から10日朝にかけて狼が4回目撃されており、同じ狼らしい。

発見現場の間交番は市中心部。通勤、通学時間帯となり、人だかりがでるなど一時騒然となった。中央区六本松3にある「金網や塀の壊れて食べていた。こんな市に」と驚いていた。